

# はじめに

私たちが日々生活していくうえで、ごみに関する様々な問題は避けて通れない課題のひとつです。ごみ焼却に伴う温室効果ガスの増大や、天然資源の枯渇等は、地球環境の問題であり、私たち人類が直面する課題です。

大阪市では、平成14年8月に大阪市廃棄物減量等推進審議会からの答申を受け、「ごみ減量アクションプラン」を策定し、持続可能な循環型社会の形成に向け、ごみの減量・資源の有効利用について率先して推進していますが、これには、市民・事業者の皆さんの自主的な取組が非常に重要となります。

この冊子は、「ごみ減量アクションプラン」の中で、市民・事業者の皆さんや大阪市が、ごみの減量・資源の有効利用に取り組むための基本的な考え方となる3Rを推進するための行動メニューの中から、市民の皆さんに向けた行動メニューを、次の三つの生活場面に分類し例示したものです。

- 買物をするとき
- くらしのなかで
- いらなくなったものを活かすために



ご自身のこれまでのライフスタイルを見直すきっかけとしていただき、さらなるごみの減量につなげてください

## ごみの減量・資源の有効利用に取り組むための基本的な考え方

3つの頭文字をとって、**3R**（スリーアール）といえます

高

3Rの優先順位

低

最終的にごみになるものも、できるだけ環境に負荷を与えないよう適正に処分することが大切です

●循環型社会形成推進基本法におけるごみ処理の優先順位

- 1 リデュース**  
Reduce (発生抑制)  
まず、生産・流通・消費の各段階から、ごみの発生を抑制する取組を行います。
- 2 リユース**  
Reuse (再使用)  
次に、リターナブルびんのようにそのまま使用できるものは何度も再使用しましょう。
- 3 リサイクル**  
Recycle (再生利用)  
そして、不用となったものは、原材料として利用するなどして、再生利用を進めることが大切です。
- 4 熱回収**  
(サーマル・リサイクル)  
資源として使えない場合は、燃やしてその熱を利用します。
- 5 適正処分**  
最終的にごみになるものは、適正に処分します。

○発生するごみは、分別して「リサイクル(再生利用)」することはもちろん大切です。しかし、「リサイクル(再生利用)」よりも、まず、環境への負荷が低い「リデュース(発生抑制)」や「リユース(再使用)」をすることが大切です。

○「リサイクル(再生利用)」に重点を置きすぎるばかりに、「大量生産・大量消費・大量リサイクル」に陥り、結果としてかえって環境負荷を増すことのないよう、考慮する必要があります。

○市民・事業者・大阪市が、それぞれの責任を果たしつつ、パートナーシップのもとに、協働して日々の活動の中で、実際にごみ減量を推進できるような具体的取組を行うことが重要です。